

ottobock.

C-Brace試着機 DTO 使い方マニュアル

2025年12月版



【目次】

1. はじめに
2. 構成パーツ
3. 調整機構
4. 計測
5. 計測値をDTOに反映
6. 装着
7. C-Braceの電源とBluetoothウース
8. キャリブレーション
9. DTOでの動作確認手順
 - 9-1. 立位
 - 9-2. 座位動作
 - 9-3. ステップ
 - 9-4. 振り出し
 - 9-5. $+\alpha$ の動作
10. C-Braceの電源OFF

1. はじめに

DTOは、C-Braceが適応するかどうかを確認するための試着機です
C-Braceの機能を体感し、使いこなせるかどうかを見極めるために実施します。さらに使いこなすために必要なりハビリの評価にも有効です

【両側の場合】

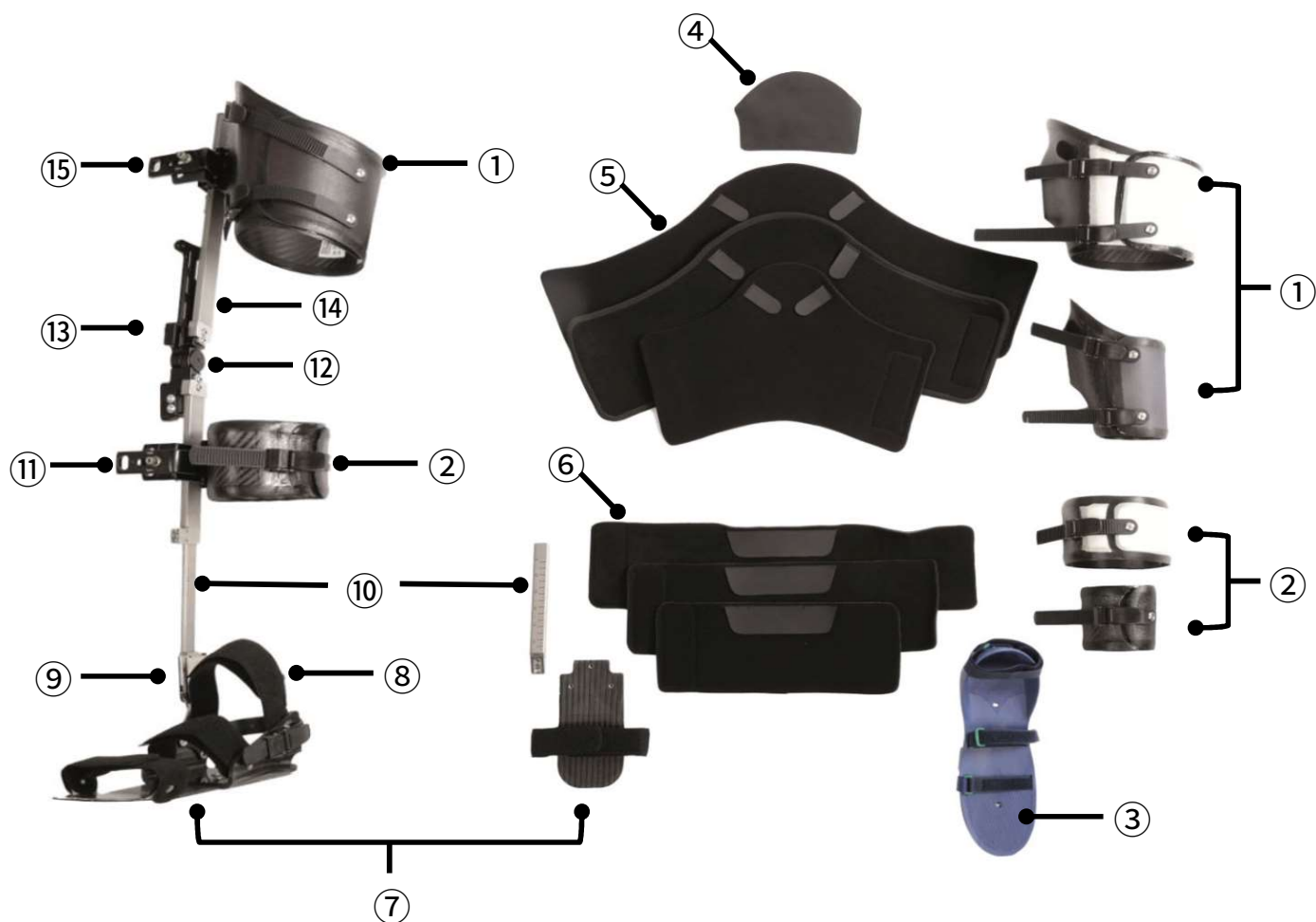
- DTOは片方ずつ行います
- 最初に支持性の良い側にDTO（C-Brace）を装着します
- 可能な場合は、両側に装着し評価をします

【身体的条件】

C-Braceを活用して歩行するためには、「長下肢装具を自身で振る」必要があります

- 体幹の筋力がしっかりしている
- 脚を振り出せる程度の股関節の筋力がある
- 股関節の筋力の代わりに、腰などを使い脚を振り出せる
- 痙性がない、あっても微弱

2. 構成パーツ



名称	補足
① 大腿スリーブ	S (周径32-45cm)、M (周径44-58cm)、L (周径54-80cm)
② 下腿スリーブ	S (周径23-31cm)、M (周径30-40cm)、L (周径36-49cm)
③ 靴用補高	脚長差がある場合、反対側に装着する
④ 補足用パッド	大腿スリーブと大腿部に隙間がある場合、取付けて隙間を埋める
⑤ 大腿部用パッド	大腿スリーブと面ファスナーで取付ける
⑥ 下腿部用パッド	下腿スリーブにフラップを引っ掛け、ずり落ちないようにする
⑦ 足部用前足部プレート	靴を履いた足長が28cmを超える場合は、長いプレートに交換を検討
⑧ ストラップ	足部を固定するストラップ
⑨ 足継手	足継手17LA3N
⑩ ベースチューブ	膝関節軸 - 床面の距離によって適宜交換 短いチューブ (距離40-53cm)、長いチューブ (距離47-60cm)
⑪ 下腿部調整機構	下腿スリーブを取付け、位置や角度を調整する機構
⑫ 仮軸	---
⑬ C-Brace® 膝継手	C-Brace本体が取付けられる
⑭ 支柱	---
⑮ 大腿部調整機構	大腿スリーブを取付け、位置や角度を調整する機構

3. 調整機構

3-1. 準備する調整ツール



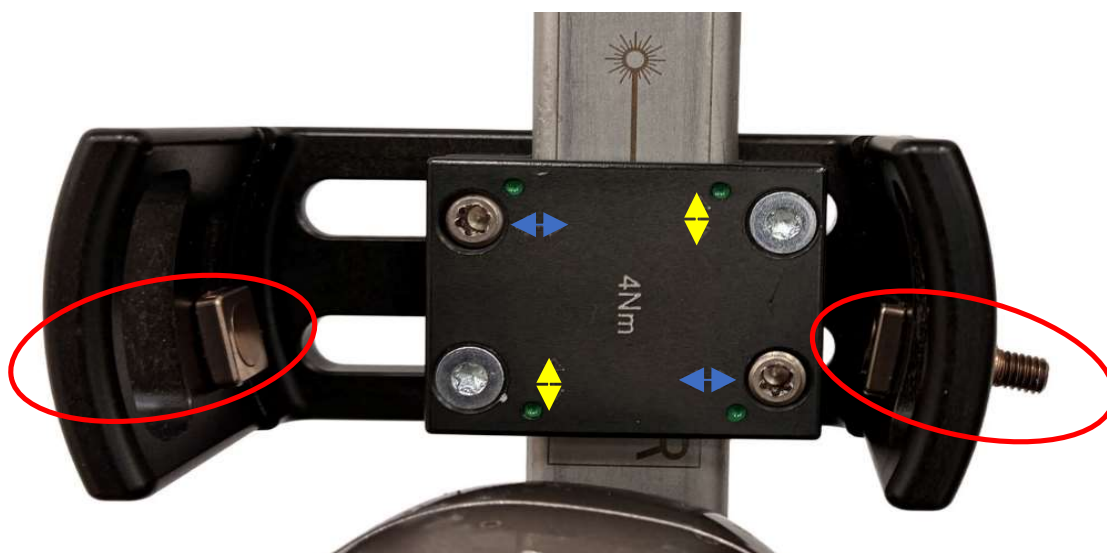
3-2. 大腿/下腿スリーブの位置と向き

①⑪ 下腿部調整機構、①⑫ 大腿部調整機構には、矢印で調整方向が記載されている

前後位置： 青矢印2カ所のネジを緩め位置を調整

上下位置： 黄矢印2カ所のネジを緩め位置を調整

傾き： 赤丸2カ所のネジを緩め傾きを調整



3-3. 大腿部の高さ

⑮大腿部調整機構を上下に移動させることで調整を行う

3-4. 下腿部の高さ



⑪ベースチューブ、⑭支柱（下腿部）を上下にスライドさせ調整
赤丸のネジを緩め高さを調整

規定トルク値：6Nm

4. 計測

必要な箇所を計測し、必要な構成パーツを準備する



1) 大腿部と下腿部の周径

サイズ	S	M	L
大腿スリーブ	32 - 45	44 - 58	54 - 80
下腿スリーブ	23 - 31	30 - 40	36 - 49

2) 膝関節軸 - 床面の距離

靴を履いた状態で計測

距離	
短いチューブ	40-53cm
長いチューブ	47-60cm

3) 靴を履いた状態での靴の長さ

靴のサイズではありません

5. 計測値をDTOに反映

5-2. ベースチューブの長さ



目盛を計測値+2cmで設定する

5-2. スリーブの準備



計測値から使用する大腿/下腿スリーブを選択する

大腿/下腿スリーブに専用金具を取付ける
L字部分が前面にくるよう取付ける

T25トルクスドライバー使用
規定トルク値：4Nm

5-3. 足部プレートの長さ



⑦ 足部用前足部プレートを測定値にあわせる



3カ所のネジを緩めプレートを伸ばす
必要に応じて長いプレートに交換する

6. 装着

6-1. 大腿/下腿スリーブ



大腿/下腿スリーブで緩みが出そうな場合、
⑤大腿部用パッド、⑥下腿部用パッドを巻く

取付ける向きに注意する

⑤大腿部用パッド	面ファスナーが外側上部 →大腿スリーブに取付ける
⑥下腿部用パッド	フラップが上部 →下腿スリーブに引っかける

【注意】

大腿/下腿スリーブと同じサイズのパッドを装着すること



大腿/下腿スリーブを装着する

- ・ サイズを確認する

【ポイント】

可能な限り近位に取付ける

6-2. 足部プレート



踵を足部プレートにあわせて装着する

足継手の位置を決める

【ポイント】

- ・ 足部を足部プレートの後面までしっかり挿入する
 - ・ 足継手は外果とあわせる
- 足部プレート踵側のストラップの締め具合で位置を調整する

前足側のストラップをとめて固定する

【ポイント】

- ・ 隙間がある場合は、PEライトなどのクッション材で埋める
固定力を上げるため

6-3. 下腿スリーブと調整機構



下腿スリーブと下腿部調整機構を取付ける

T25トルクスドライバー使用
規定トルク値：4Nm

【ポイント】

支柱が下腿中央に来るようにする



膝軸の位置を調整

C-Braceのレーザーポインターを点灯させる
*本体裏面にスイッチがあります



関節裂隙を触診し位置を確認する

レーザーポインターを関節裂隙の位置+2cmの高さにあわせる



必要に応じてベースチューブの長さ調整を行う

T25/T30トルクスドライバー使用
規定トルク値：6Nm



下腿スリーブの高さ調整

膝裏に下腿スリーブが当たるようであれば、下腿スリーブの位置を下げる

【ポイント】

可能な限り近位に取付ける



上下矢印の2カ所のネジを緩めて高さ位置を調整する

T25トルクスドライバー使用

規定トルク値：4Nm

【補足】

3-1. 大腿/下腿スリーブの位置と向き 参照



下腿スリーブの前後位置の調整

左右矢印の2カ所のネジを緩めて前後位置を調整する

T25トルクスドライバー使用

規定トルク値：4Nm

【ポイント】

可能な限り生体に近づける



下腿スリーブの適合

脛骨稜に均等に接触するように取付ける



下腿スリーブと生体の隙間が大きすぎる場合は、スリーブの角度を調整する

下腿部調整機構の前面のネジを緩める

少しずつネジを締めながら調整していく

6-4. 大腿スリーブと調整機構



大腿スリーブと大腿部調整機構を取付ける
C-Braceを屈曲させ、取付ける

T25トルクスドライバー使用
規定トルク値：4Nm



大腿部パッドを装着している場合、
大腿部パッドの面ファスナーを大腿スリーブに取付ける



大腿スリーブの高さ調整
座面に当たり調整が難しい場合は、次項以降に行う

【ポイント】

可能な限り近位に取付ける

上下矢印の2カ所のネジを緩めて高さ位置を調整する
T25トルクスドライバー使用
規定トルク値：4Nm

【補足】

3-1. 大腿/下腿スリーブの位置と向き 参照

6-5. 立位でアライメント確認

【重要】

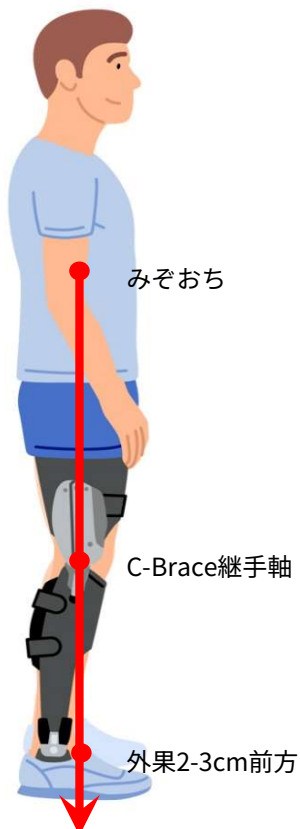
立位をとる前に、全てのネジが規定トルク値で締められていることを確認する



平行棒など安全を確保し立位をとる



脚長差がある場合、
③靴用補高を反対側に履かせて高さを合わせる



足継手17LA3Nの調整

矢状面で体幹中央を通る線が、外果の2-3cm前方を通るようにする

- 上体を起こし、臀部を前方へ出すようにして立位をとる（可能な範囲で）
- 下肢が屈曲傾向にある場合、
→ 前方のネジを回し背屈制限を強める
- 後方のネジを回して背屈補助（底屈制動）を緩めておく
→ 10.振出しで適宜調整する

トルクスドライバーT30を使用





大腿スリーブの高さ調整

【ポイント】
可能な限り近位に取付ける

1) 装具：伸展位 ユーザー：屈曲位

状況：	生体とDTOの膝関節軸が一致していない	生体とDTOの膝関節軸が一致している
対応：	下腿スリーブを後方に動かす	大腿スリーブを前方に動かす

2) 装具：屈曲位 ユーザー：伸展位

状況：	生体とDTOの膝関節軸が一致していない	生体とDTOの膝関節軸が一致している
対応：	下腿スリーブを前方に動かす	大腿スリーブを後方に動かす

3) DTOの支柱



DTOの支柱は可能な限り、床面に対して垂直になるようにする

6-6. 大腿/下腿スリーブ最終確認

1) 大腿スリーブ



大腿スリーブの高さ

上下矢印の2カ所のネジを緩めて高さ位置を調整する

【ポイント】

可能な限り近位に取付ける



大腿スリーブの前後位置

左右矢印の2カ所のネジを緩めて前後位置を調整する



大腿スリーブの角度

前後の取付けネジを緩めて傾きを調整する



大腿スリーブの適合

大腿スリーブと大腿部に隙間がある場合、

④補足用パッドやタオルなどを挿入して固定力を高める

2) 下腿スリーブ



大腿スリーブと同様に、高さ、前後位置、傾きの最終確認を行う



必要に応じて、下腿スリーブと支柱の間の距離を調整する
前後の取付けネジを緩めることで調整が可能

3) 大腿/下腿部調整機構



誤った取付け
調整機構が傾いている
パーツが正しく嵌っていない可能性がある



正しい取付け
調整機構を持ち上げ、スリーブが水平になるようにする

7.C-Braceの電源とBluetooth

C-Brace本体の電源をONにする



①電源ボタンを長押しして、C-Braceの電源をONにする
「ブープ（1回長く+1回短く）」と、バイブレーションが発せられる

BluetoothをONにする



電源ボタンを短く押し、②Bluetoothボタンが青く点灯するか確認する

点灯する： BluetoothはONです

点灯しない： BluetoothはOFFです

ボタンの長押しして、電源をONにする

【注意】

BluetoothがONになっていない場合、調整アプリ（connectgo.proアプリ）と接続が行えません

【補足】

connectgo.proアプリについては、別紙のマニュアル参照

8. キャリブレーション

connectgo.proアプリと接続しキャリブレーションを行う

- ・ 基本データを入力する
- ・ キャリブレーションを行う

【補足】

立位が安定せず、膝が曲がってきてしまう場合、正しくキャリブレーションが行えません
その場合は、下記のような対応を実施する

ユーザーの身体を支える

OR 訓練モードにする →立脚相ではロック、遊脚相へは切替わるモード

OR 膝を抑えて屈曲を防ぐ

OR 足継手の背屈制動を強める

など

9. DTOでの動作確認手順

9-1. 立位



身体を起こして立位を保持することができるか確認する
両脚は肩幅に開く

膝が曲がってきてしまう場合

- ・ C-Brace側の膝をロックする姿勢を覚える
→ 膝と踵を後方に残す

適度に重心を前方に移動させる

→ 脚長差がある場合、反対側に③靴用補高を履く

9-2. 座位動作



座位動作を行い、油圧抵抗を調整する

- ・ 油圧抵抗の感覚をつかんでもらう
- ・ 可能な限り左右均等に荷重する

【ポイント】

- ・ お辞儀をするように、臀部を後ろに引く
- ・ 鼻先をつま先に向けるようにする

9-3. ステップ

【身体的条件】

C-Braceを活用して歩行するためには、「長下肢装具を自身で振る」必要があります

- ・ 体幹の筋力がしっかりしている
- ・ 脚を振り出せる程度の股関節の筋力がある
- ・ 股関節の筋力の代わりに、腰などを使い脚を振り出せる
- ・ 痙性がない、あっても微弱

【ポイント】 connectgo.proアプリでフィードバック音をONにしておくことよい

1) 足を揃えた状態から、反対側を1歩前に出す



反対側を1歩前に出す 歩幅は小さくてOK
C-Braceに体重を乗せる
C-Braceが伸展していることを確認する→フィードバック音が鳴る

上体を起こす
足を揃えて立位をとる
両脚は肩幅

2) 反対側を引いた状態から、1歩前に出す

- ・ 長下肢を乗り越えて、体重移動が行えることを確認
- ・ C-Braceが屈曲しないことを確認
- ・ スタンスリリースに必要な動きを体感



反対側を1歩前に出す 歩幅は小さくてOK
C-Braceに体重を乗せる
C-Braceが伸展していることを確認する→フィードバック音が鳴る

上体を起こす
反対側を1歩引いて立位をとる

【よく見られる悪い例】 C-Braceが曲がってしまう



対応例



下記のようなケースは、腰と膝前面をサポートし動きを覚えてもらう

- ・ C-Braceが屈曲してしまう
- ・ 反対側を前に出せない

- ① C-Brace側の膝をロックさせる
- ② そのままC-Brace側に荷重
- ③ 反対側を1歩前へ出す

サポートなしで再度行い、正しく反対側を前に出せることを確認する

9-4. 振り出し

8-3.ステップが出来るようになったら、C-Braceを遊脚相に切替え、反対側を超える動作を行う

【ポイント】 connectgo.proアプリでフィードバック音をONにしておくとい



股関節を前方に振る

フィードバック音

【ポイント：両側ユーザー】

- ・ 片側ずつ装着し、振り出し動作が行えるようになったら両側に装着する
- ・ 左右への重心移動をよりしっかり行い、前方への推進力に繋げる
- ・ 平行棒から歩行器に変更するのもよい

【ポイント：両側ユーザー】

両側に装着すると遊脚相へ切替わらなくなる場合がある

よく見られる要因：

- ・ 片側への重心移動が過剰になり、荷重側のC-Brace屈曲方向に
- ・ 前方に振り出した側に荷重ができない

【よく見られる悪い例】 タイミングが合わない



よく見られる症状：

フィードバック音は発せられるが、遊脚相に切替わらない
C-Braceが遊脚相に切替わらずつま先が引っかかる
→ 反対側に③靴用補高を履く

よくある要因：

遊脚相に切替わるフィードバック音を待ってしまう
反対側の着地が遅い
→ 時間が経過してしまいイールディングモードに戻ってしま
い、C-Braceが屈曲しない

【遊脚相への切替え要件】

- ・ C-Braceの伸展モーメント → 屈曲方向への動きが検知されると切替わらない
- ・ 前方への移動 → 後方へ重心が戻るような動きがあると切替わらない
- ・ 長下肢装具の前傾する動き

【よく見られる悪い例】 ぶん回し・伸びあがり



よく見られる症状：
フィードバック音は発せられない
上体が傾く

よくある要因：
C-Brace側に体重をかけきれない

9-5. +αの動作

9-4.振り出しが確実にできる場合、スロープや段差下りを体験してみることも可能
手順は別紙 C-Braceユーザートレーニングガイド および C-Brace理学療法ガイドライン 参照



10.C-Braceの電源OFF

DTOの使用終了後、C-Braceの電源をOFFにする



- ①電源ボタンを長押しして、電源をOFFにする
「♪♪♪♪（下がる）」メロディーが鳴る

【注意】

輸送前に必ず電源をOFFにしてください！
万が一、輸送中にバッテリー切れを起こした場合、バイブレーション信号が発せられ危険物と認識される恐れがあります

【よくある質問】

質問	両側ユーザーの場合の進め方
対応	DTOは片側から、最初に支持性の良い側にDTO（C-Brace）を装着し評価をします 可能な場合は、両側に装着し評価をします
質問	大腿/下腿スリーブを可能な限り近位に装着する理由は？
対応	支えがしやすい、特に下腿部は体重をはずけやすくなるため

オットーボック・ジャパン(株)
www.ottobock.com/ja-jp